

日本キリスト教会 大阪北教会

2018年3月25日(日)聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ルカによる福音書23章44節～49節

44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たちとは遠くに立って、これらのことを見ていた。

説教 『父よ、わたしの霊を御手にお委ねいたします。』

◆教会の暦では今日から一週間が「受難週」であります。クリスチャンはこの週の日々を主の御受難を偲びつつ過ごす慣わしであります。でありますのに、私は早や復活節を迎えたかのように心は喜び溢れ、浮き立っているのですが、これは不謹慎なことでしょうか。先程、ご一緒に讃美歌301番を歌いました。その3節に“十字架の主こそ ところしえの命”とありました。私たちが何よりも大事にいたしますこの日曜日の礼拝、これは十字架の主が、週の初めの日の日曜日に甦られたことを記念する礼拝でありますから、悲しみや痛みを覚えながらも、そのことさえも越えて喜ぶことこそふさわしいことではないでしょうか。

◆この礼拝において讃美歌を歌う時、私は皆さんの視線を浴びながら歌うのですが、皆さんは、お互いがどのような表情で讃美歌を歌っているか分かりませんね。私には皆さんの表情が見えます。文度允さんは、いつも微笑を浮かべて歌っておられます。讃美歌はその様に歌うのが相応しいのではないのでしょうか。いずれにせよイエス様は私たちが救うために命をかけて下さったのです。このような有難いことは、古今東西、どこを探してもありません。

◆ところで、私たちが今礼拝を捧げておりますこの礼拝堂ですが、本当に素晴らしいですね。献堂して十一年になります。この礼拝堂とステンドグラスについては、色々の秘話があるのですが、それらの全てを繰り返すことは致しませんが、実はこの正面のステンドグラスですが、作家の三浦啓子先生は、この礼拝堂の正面に、十字架を三つ付けることを提案されたのですが、私はその当時、キリストの十字架一つだけで良いとの考えで、その提案は受けないで、今のようになったのです。ところが三浦先生

は、諦め切れなかったのですね、イエス様の十字架の左右に、犯罪人の二つの十字架を忍ばせたのです。よくご覧になって下さい。ここと・ここに、十字架がありますね。今にして、芸術家として三浦啓子先生の提案の意義深さを覚え、今更のように感服している次第であります

◆と申しますのは、受難節・レントに入ってから毎週、「十字架上の七言」を記しております。そして今日の聖書の箇所には最後の第七言、「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」との御言葉があります。そして、今日の聖書の箇所のすぐ右には、第二言の「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」との御言葉が記されております。このイエス様の第二言は、全ての人ひとりひとりを包み込む御言葉であります。そしてこの御言葉を最初に頂いた人は、自分は死刑になっても当然の者だと、自分の償い得ない罪を認めている人です。その人に主イエス様は、「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われたのです。

◆この第二言の「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」との御言葉は、全聖書に証しされている福音が、この一言に含まれており、「これぞ福音！」と言っても過言ではない御言葉ではないでしょうか。それで、このイエス様の御言葉は、もしイエス様の左と右に十字架に付けられた二人の犯罪人がいなければ、この尊い御言葉は、決して語られる事なかった御言葉であります。劇でもドラマでも主役がいます。そして脇役がいます。そして名脇役がいて、主役が一層光ることがありますね。これら二人の犯罪人も、なくてはならない尊い存在なのです。

◆少し飛躍いたしますが、皆さんは、今日、礼拝の司会をされておられる柴田長老の愛唱聖句をご存じですか。イザヤ書43章4節の御言葉です。「あなたはわが目に尊く、重んぜられるもの、わたしはあなたを愛するがゆえに、あなたの代りに人を与え、あなたの命の代りに民を与える。」姉妹は若い日に、この御言葉に出会われて、ご自分の存在意義を自覚されたと、以前お聞きしたことがあります。人ひとりの存在は、人の目にどのように映ろうが、神様の御目には、イエス様の御目には、掛け替えなく尊い存在だということでもあります。

◆ところで、このイエス様の地上の歩みにおける最後のお祈りは、ユダヤ人の両親が、こどもに最初に覚えさせたお祈りだと言われております。そして一日最後の、就寝の祈りだと言われております。イエス様が幼児期より毎日毎日唱えられた祈りです。内村鑑三に『一日一生』という本がありますが、正にイエス様は一日を一生のように、一生を一日のように生きられたのです。それは実に充実した濃密な尊い日々でありました。そして、「霊」というのは、「人間における一番大切な部位であります。神様と関わる部

位であります。イエス様は一日一日を一生のように、そして一生を一日のように、神様の御前に生きられたのです。

◆そして、先週も言いましたが、イエス様の一日一日は、「いやし」のために費やされました。「いやし」は「奉仕」です。「仕える事」です。日々接する人、一人一人に「神様にお仕えるように仕える」ことです。以前、申したことがあります、多くの人々がイエス様の癒しの噂を聞いて、助けを求めてやってきましたが、自分たちの番が来る前に、帰って行った人たちも多かったのです。何故かと申しますと、人々はイエス様のいやされる様子を見ていて悟ったのです。「自分たちの人に接する態度、家族に接する態度、病人に接する態度は、間違っていた事に気付いたのです。「自分たちは、全身全霊をもって家族に、そして人に仕えてはいなかった」ことを悟ったのです。

◆そして、先週読んだ聖書の箇所が、イエス様の最後の「いやし」だと申しました。それは、この犯罪人の一人を癒すことでした。「あなたは今日、わたしと一緒に楽園にいる」と言われました。これが、いやしです。死刑囚の魂にいやしを与えられたのです。その「癒しの生涯」の日々の最後が、死刑囚の魂にいやしと慰めと救いをもたらす御業・御奉仕だったのです。ローマの百人隊長が、この最後のいやしの証人だと、先週申しました。しかし、この百人隊長が、最後の証人であることを、証言するのは、一体誰でしょうか。つまり、証人の証人は誰でしょうか。それはローマの兵卒しかいません。百人隊長が、突然、イエス様の十字架の下にくず折れたのです。驚いた兵卒達が、駆け寄って、「隊長、如何なされましたか」と聞きますと、「誠に、この人は、正しい人だった」とつぶやきます。「隊長、なんと申されましたか？」と聞きますと、「誠に、この御方は、神の子であられる」とつぶやいて、その場に百人隊長はくず折れたのではないのでしょうか。

◆この百人隊長の言葉の証人は誰かといえば、状況からして、隊長の部下であった兵卒達以外にありません。ローマ国家が、罪人として死刑に処した者が、義人であり、神の子であるという、驚くべき事柄を、百人隊長とその部下が証言したのです。これを遠くから眺めていた、イエス様の母マリアさんや他の人々も、この彼らの証言を、後日、聞いたのではないのでしょうか。

◆今年6月22日に、中会の婦人部の修養会が西宮のプレラホールで行われるのですが、主題は、「聖書に見る信仰の継承」～つたえでやあるべき みすくいのかしこさ～です。この主題は、私たちの教会の課題でもあります。そして「信仰」という言葉は、ギリシャ語で「ピスティス」と言うのですが、「真実」というのが第一義であります。「真実」が「信仰」を生むのです。そしてその「真実」は、イエス様の中にのみあり

ます。その「真実」・「絶対の真理」のみが「信仰」を生み出すのです。その他のいかなる方策も、信仰を生み出すことはできません。慰めをもたらすことはできません。わたしたちは、如何に生きるべきか？主イエス様は、この私が正に死刑にこそふさわしい罪人であっても、ご自身の命に代えても、私と共にいまして、とりなしてください。全く、孤立無援の身であっても、そのような者に寄り添い、御国に伴ってくださいます。

◆ここに持ってきましたのは星野富弘さんの作品です。この花は何という花でしょうか。この花の絵に次の詩が記されています。「ほんとうのことなら 多くの言葉はいらない 野の草が 風にゆれるように 小さなしぐさにも 輝きがある」。既に皆さんもよくご存じのように、星野富弘さんは、1946年に群馬県勢多郡東村に生まれ、1970年に群馬大学を卒業し、中学校の体育教師になりますが、クラブ活動の指導中の事故で頸髄を損傷し、手足の自由を失います。治療のために群馬大学病院に入院されるのですが、それからしばらくの間は、口をついて出るのは、「ちくしょう！」という言葉だけだったと本に書いておられます。地獄を経験されたのですね。しかしそこを乗り越えて、1974年に洗礼を受けられます。そして、口に筆をくわえてこのように素晴らしい詩や絵を書かれるようになられました。そして、主イエス様の恵みを証ししておられます。素晴らしい事ですね。

◆わたしたち如き者も、なくてはならない存在として生かされております。一日一日を一生として生きましょう。イエス様に、「主よ、この私を、御心の片隅に御留めおきください」と祈りつつ過ごしましょう。そして、一日の終わりには、「父よ、わたしの霊を御手に御委ねいたします」と祈りつつ、過ごしましょう。

◆お祈りいたします。

御子イエス様を私たちの救いの為にお遣わしくくださった父なる神様。あなたの限りない御愛を覚えて心から感謝いたします。あなたは、わたしたちがどのように深い闇の底に落ちて、共にいて下さいます。そして、あなたは今日、わたしと一緒に樂園にいて仰って下さいます。どうか私たちのこれからの日々が、あなたと共なるものであらせてください。どうか私たちの存在が、あなたの恵みの福音が、あなたの真実が輝き出すことに役立つものとして下さい。あなたがわたしたちに癒しをもたらしてください。これらの祈り、主イエス様の御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。